

# 99-192

## 問題文

58歳男性。体重55kg。直腸がんの再発のため、オキサリプラチン、フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム、薬物Xによる治療を受けた。治療開始10日頃より、顔面にざ瘡様皮膚炎が起こり、その後皮膚亀裂及び爪周囲炎が見られた。この症状は薬物Xの副作用と考えられた。

薬物Xにあてはまるものはどれか。2つ選べ。

1. セツキシマブ
2. クリゾチニブ
3. テムシロリムス
4. イリノテカン硫酸塩水和物
5. パニツムマブ

---

## 解答

1, 5

## 解説

顔にきびのような皮疹、皮膚炎が起きたり、爪に爪周囲（そういえん、別名 ひょうそう とも呼ばれます）が起きるのは、分子標的薬特有の副作用です。（ちなみに、この副作用は、薬の効きのよさと関連するといわれています。）よって、X は、セツキシマブ（EGFRが標的）及び パニツムマブ（EGFRが標的）であると考えられます。

ちなみに、選択肢 2 の クリゾチニブも分子標的薬（ALK が標的）なのですが、これは非小細胞性肺がんに用いられる肺がん用の薬です。

又、選択肢 3 の テムシロリムスも、分子標的薬（mTOR が標的）なのですが、これは腎細胞癌に用いられる腎がん用の薬です。

以上より、正解は 1,5 です。